

# 学位論文の要約

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 病態修復医学講座 女性骨盤外科学分野	氏 名	塩崎隆也
-----	--	-----	------

## 主論文の題名

Association of CXC Chemokine Receptor Type 4 Expression and Clinicopathologic Features in Human Vulvar Cancer

(ヒト外陰癌における CXC ケモカイン受容体 tpey4 の発現と臨床病理学的特徴との関連)

Takaya Shiozaki, Tsutomu Tabata, Nei Ma, Takaharu Yamawaki, Takashi Motohashi, Eiji Kondo, Kouji Tanida, Toshiharu Okugawa, Tomoaki Ikeda

International Journal of Gynecological Cancer 2014 Mar;24(3):549-55. 掲載

## 主論文の要約

### 導入

外陰癌は女性の性器癌の3-5%を占めている。その罹患率は増加しており、特に50歳以下の若年女性における罹患率の上昇が報告されている。

### 背景

ケモカインとは、化学走化性をもつタンパクの一群である。その受容体であるケモカイン受容体のうち、CXCケモカイン受容体4 (CXCR4) は、ヒトの様々な固形がんの転移において、重要な役割を果たしていることが報告されて来た。

ヒト外陰癌の主な転移経路はリンパ行性であり、リンパ系はCXCR4のリガンドが高度に発現されていることが知られている。そこで我々は外陰癌細胞もCXCR4を発現しているのではないかと考えた。さらにリンパ節転移は外陰癌の最も重要な予後因子であることから、癌細胞がCXCR4を発現していることが、無再発生存率と疾患特異的生存率の独立した予後因子ではないかと考えた。

### 目的

そこで我々は、外陰癌および外陰の前癌病変の手術検体におけるCXCR4の発現を調

べ、患者情報と併せて、ヒト外陰癌におけるCXCR4の発現の臨床的意義を解明しようとした。

#### 方法

我々の施設で治療をおこなった38例の外陰癌患者（31例は外陰原発癌、7例は外陰の前癌病変）を対象とした。免疫組織染色の方法で、CXCR4の発現を検出した。CXCR4の発現と臨床病理学的特徴との関係を、予後との関連も含め、調査した。

#### 結果

7例の前癌病変の症例については、いずれもCXCR4を発現していなかった。31例の浸潤癌の症例については、19例（61%）でCXCR4が発現していた。22例の扁平上皮癌のうち15例（68%）が、7例のPaget腫瘍のうち2例（29%）が、CXCR4を発現していた。浸潤癌と前癌病変におけるCXCR4の発現の違いは統計的に有意であった（ $p = 0.003$ ）。

FIGO (International Federation of Gynecology and Obstetrics) III-IV期の癌は、I-II期の癌と比較して、CXCR4を発現していることが多かった（82% vs 50%,  $p = 0.08$ ）。無再発生存率については、CXCR4を発現している癌の予後は、CXCR4を発現していない癌の予後と比較して、不良であった（ $p = 0.013$ ）。しかし、疾患特異的生存率については、CXCR4陽性の癌と陰性の癌を比較したところ、有意差は認められなかった（ $p = 0.111$ ）。

#### 結論

外陰癌の半数以上がCXCR4を発現していると考えられ、その発現は予後と関連していると考えられた。